

# 令和6年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 東朽網 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

#### (2) 児童質問調査

児童質問調査
<input type="radio"/> 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答率	平均正答率	平均正答率	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「話す・聞く」領域の自分の考えについて表現を工夫して伝えたり、目的に応じて集めた材料を分類し関連付けて、伝え合う内容を検討したりする思考力・判断力・表現力をみる問題に成果が見られた。「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字を正しく使う問題に課題が見られた。
	よくてきた問題	・「話す・聞く」領域：資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する問題 ・「書く」領域：目的や意図に応じて集めた材料を分類し関連付けて伝えたいことを明確にする問題 ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」：漢字を文の甲で正しく使うことができるかをみる問題
	努力が必要な問題	・「書く」領域：自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫をみる問題
算数	全体的な傾向や特徴など	「データの活用」領域の知識・技能をみる問題や思考力・判断力・表現力をみる問題は全国平均を上回っていた。「変化と関係」領域の思考力・判断力・表現力をみる問題は全国平均を上回り成果が見られた。「図形」領域の思考・判断・表現をみる問題は全国平均を下回っており、課題が見られた。
	よくてきた問題	・「データの活用」領域：表から必要な数値を読み取り式に表して基準値を超えるかを判断する問題 ・「数と計算」領域：除数が小数のときの除数と商の大きさの関係について理解しているかをみる問題
	努力が必要な問題	・「数と計算」領域：計算の仕方を考察し、求め方を答えを式や言葉を用いて記述する問題 ・「図形」領域：球の直径と立方体の一辺の長さの関係を探え、立方体の体積の求め方を式に表す問題

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分にはよいところがありますか」の肯定的な回答は85%で全国平均を上回っている。婦りの会等の時間を活用した定期的な児童のよいところ付けや「感謝の手紙」を紹介する校内放送の取組がよい影響を及ぼしていると考えられる。「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の肯定的な回答が82%で全国平均を下回っているため、児童のよさや頑張りを認め賞賛する取組を継続する。</li> <li>・生活習慣の項目では、決まった時刻に起床する児童の割合は93%で全国平均を上回っている。本校は集団学校を実施している集合時刻が決まっていることが、よい影響を及ぼしていると考えられる。しかし、毎日朝食を食べる児童の割合、同じくらの時刻に寝る児童の割合が85%と69%であり、全国平均を下回っている。生活習慣の改善を行う必要がある。</li> <li>・ICT活用の質問7項目のうち、「分からないことがあった時にすぐに調べるができる」「自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」など5項目が全国平均を上回っている。今後も様々な学習活動でタブレットの活用を進めていく。</li> <li>・家庭学習の時間についての問では、1時間以上学習をしている児童の割合が低いため、計画的に家庭学習を行うことができるよう取組む必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

・学習のまとめや振り返りの場面で、自分の考えが分かりやすく伝わるように工夫して書く活動の充実を図る。タブレットが活用できる学習活動を職員間で共有し、発達段階に応じたICTの活用を進めていく。算数科ではチャレンジタイム（補充学習の時間）を活用して「数と計算」「図形」領域の思考、判断、表現をみる問題に取り組む。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

・定期的に健康的な毎日をご過ごせるように、早寝早起き朝ご飯の実践、十分な睡眠時間の確保について学校通信や学年通信、保健だよりを活用して啓発を推進する。  
・小中連携では、学年ごとに家庭学習の時間や啓発週間を設定して、計画的に家庭学習に取り組めるようにする。